

第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会
(平成26年2月15日開催)

第Ⅱ部 平成25年度広島県合同輸血療法研修会の開催について

1 概要

広島県合同輸血療法委員会の設置目的である「医療機関における輸血療法委員会相互の情報交換を図り、広島県内における輸血医療の標準化をめざすものとする。」に則り、血液製剤の適正使用、安全性に関する知識の向上及び有効利用のより一層の推進を図ることを目的として、次のとおり開催した。

2 開催結果

県内医療機関等から、151名（医師22名、薬剤師22名、看護師20名、臨床検査技師75名及びその他12名）の参加を得、特別講演として福島県立医科大学医学部長・副学長 輸血・移植免疫学教授 大戸 斉先生をお招きして「全医療人で達成する良質な輸血医療」と題して特別講演をいただいたほか、県内医療機関の輸血療法の状況に関するアンケート調査報告や前年度の訪問相談事業実施医療機関からの報告等による研修を行った。

また、研修会終了後の参加者からのアンケート調査では、約7割にあたる95施設から回答を得ており、研修の内容が有意義だったとの感想が多く、今後の継続を望む声が多かった。今後取り上げてほしい内容としては、病院の具体的事例発表の継続、輸血医療の今後の方向性について、様々な職種の立場での発表等広範囲の内容が挙げられていた。さらに、開催地域や開催時間の要望も出されており、今後の開催方法を工夫していく必要性を感じた。

（特別講演について）

◎第3部 特別講演（福島県立医科大学 大戸 斉 医学部長）

- ・テーマ：全医療人で達成する良質な輸血医療
- ・安全な輸血には、関係する専門職の相互信頼が欠かせない。
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医、認定輸血検査技師、学会認定・自己血輸血看護師、学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・アフェレーシスナースの制度化に取り組み、定着してきた。
- ・輸血過誤（A B O不適合）の頻度は、1980年代の150～200人と比較すると2000年代前半で5人以下と減少している。A B O不適合には、単に血液型を間違えたのではなく、もっと基本的な患者の取り違えや保存の不備等もある。問題点として①一つのトレイに2人分の血液製剤を保存していた、②患者確認・ダブルチェックを怠った、などが指摘されている。
- ・場合によっては、血液型の異なる輸血も必要である。（O型は、A型、B型、AB型に輸血できるし、A型及びB型は、AB型に輸血できる。R h（-）の血液はR h（+）に輸血可。逆は不可。）
- ・問題が生じた場合には、安全管理部や輸血療法委員会を通じて病院全体で改善していくことが必要。

<開催概要>

1 日 時

平成26年2月15日（土） 15時～18時

2 場 所

国保会館6階 大会議室
(広島市中区東白島町19番49号)

3 主 催

広島県合同輸血療法委員会（事務局；広島県，広島県赤十字血液センター）

4 共 催

日本輸血・細胞治療学会中国四国支部，（社）広島県医師会，（社）広島県病院協会，
（一社）広島県臨床検査技師会，（公社）広島県看護協会，（社）広島県薬剤師会，

5 参加対象者

医師，薬剤師，看護師及び臨床検査技師 等

6 演題及び講師

（開会あいさつ）～広島県赤十字血液センター所長 山本 昌弘
広島県合同輸血療法委員会委員長 高田 昇

第1部

「輸血療法に関するアンケート」結果報告等 広島大学病院輸血部部長 藤井 輝久

第2部

「訪問相談応需事業について」

1) 相談事業の概要

広島県合同輸血療法委員会委員長 高田 昇

2) 各医療機関の状況について

- ・「当院における訪問相談後の改善点」（広島市立安佐市民病院 吉森 雅弘）
- ・「当院における輸血療法委員会の現状報告と輸血訪問相談報告」
（J A 広島総合病院 笹谷 真奈美）

第3部 特別講演

「全医療人で達成する良質な輸血医療」

福島県立医科大学 医学部長・副学長

輸血・移植免疫学 教授 大戸 斉 先生

（閉会あいさつ）～広島県健康福祉局長 笠松 淳也

7 資料

次ページ以下に掲載